

## 日本版への序文

学問は国境に拘束されず、本質において普遍的である。社会保障は国によってさまざまであり、一国の中に多様な社会保障制度が共存することさえある。この場合、社会保障を学問的に研究することは可能なのであろうか？ 私は可能であると心から信じている。社会保障の原則に関するこの小著を執筆することによって、私が試みたことは、いくつかの原則は世界中のほとんどの社会保障制度に共通であることを証明することであった。つまり私は、すべての国がそのなかから自分たちのニーズと資力に最も適した要素を選択している「メニュー」の素描を試みたのである。同時に私たちはこの「メニュー」によって、それぞれの国が直面している社会問題に他の解決策があることを示唆することもできるのである。

本書が世界の他の言語に翻訳されることは、私にとって光栄であるのみならず、私が証明しようとしたとおり、社会保障の普遍性が確認されることでもある。本書の日本版を今日ここに公刊できることは、私にとってとりわけ喜びである。それは世界のこの重要な地域に本書が紹介されるだけでなく、そこに含まれている情報を利用することが日本の読者に可能となるからである。その情報は、本書の翻訳と編集の面で共同作業を行った日本のもっとも卓越した社会保障研究者の手によって案内されている。私はこれらの日本の同僚に対して深く感謝したい。そのなかには光栄にも私の友人と呼べる人も含まれている。社会保障の基本原則への入門である本書の日本版は、また多くの期待を私に抱かせる。日本版によって日本の社会保障研究者と私たちのヨーロッパ社会保障研究所との対話が強化され拡大されることを期待したい。私は経験からそうした対話がいかに興味深いことかを知っている。その対話によって、私たちは社会保障をより深く理解でき、新しい考え方と展望を与えられ、こうして私たちすべてがもがいている問題に取り組むのを助けられるのである。私たちの社会は

国民のニーズと、何よりも第一に最も弱い人々のニーズと、いかにして全力で取り組むことができるのであろうか？ この日本版が、日本の翻訳者であり同僚である人たちの作業の栄冠であるだけでなく、彼らおよび日本のすべての社会保障研究者と私たちとの高度の共同研究の出発点ともなることを、心から願う所以である。

2010年12月

ルーヴァンにて

ダニー・ピーテルス